

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第96回

会社のさまざまなサービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第96回目は、会社のニューマーケット開拓支援事業(注1)等、複数の事業をご利用いただいている株式会社おおかわ(葛飾区)をご紹介します。

「ゴムに関する専門性とアイデアで新市場を開拓」

株式会社おおかわ

最近料理器具などで話題の素材、「シリコン」。人気の理由は、耐熱性や伸縮性の高さ、洗って何度も使える強度を備えていること。また、劣化のしにくさや、原料に石油を含まないため環境に優しいこと、指定の色に調色できることも、シリコンの特徴といえるだろう。しかし、他のゴムにはないシリコンの大きな弱点として、その分子の配列により電気を帯びやすい点が挙げられる。つまり、静電気によってほこりを吸い寄せてしまうのだ。この短所をうまく活かした製品が、株式会社おおかわ(以下同社)の「ほこりとり」だ。

「使いやすさを考えていたので、思いついた時からこの形でした」

パソコン等のオフィスにも家庭にも欠かせない機械類。画面の角やキーボードの隙間など、いつの間にか溜まってしまうほこりを解消するのが、この「ほこりとり」。注目したいのは、その実用性だ。直線部分の2辺に施されたテーパ加工(注2)により薄くなったへりの部分が、画面を拭く際には画面に沿うようにしなやかに曲がるため、よりほこりを吸い取りやすい。腫部分の穴はフックにかけたり紐を通したりでき、くちばしはキーボードの隙間等の細かな部分に行き届く。また表面に希望のデザインや文字を印刷することも可能なため、記念品や企業の宣伝材料としても人気。シルクスクリーン印刷(注3)により印刷が本体のシリコンと一体化するため、劣化して印刷した文字が割れたりはがれたりする心配もなく、微細なデザインにも対応する。ほこりとりは平成21年にTASKものづくり大賞



大手量販店の文具売り場では、印刷のない無地のタイプが3サイズ販売されている

(注4)で大賞を受賞後、平成22年度に会社のニューマーケット開拓支援事業の対象となり、現在も問い合わせが後を絶たない人気商品となった。このような新製品開発の背景には、顧客を想像した使いやすさの追求と、設備や職人の技があると語るのは、ほこり通りの生みの親であり、大川淳社長の妹の大川恵美子氏。今回は恵美子氏と、40年間ゴム業界で技術師として活躍している、品質管理部の岡田隆氏に話を伺った。

「何よりも、密着させること。それが難しくもあり、最も重要です」



リングの製造過程

同社は、淳社長と恵美子氏のお父様である先代が1976年に創業。Oリング(注5)やパッキン等の工業用ゴム製品の製造や、ゴムを金属に密着させるライニング加工を行っている。この加工が可能な企業は数少なく、さらに同社は充実した設備で熟練工が行うため、発注企業側からの信頼も厚い。ライニング加工でゴムを接着する金属は通常切削加工を施されているため、まずは蒸らすことにより表面に付着した切削油を取り除くこと(脱脂)から作業は始まる。脱脂が済んだら乾燥させ、複数の接着剤を必要に応じて使い分けて加熱し、ゴムを定着させる(加硫)。脱脂が甘かったり気泡が入ってしまったりとすると、一見問題がなくても納品後に不具合が生じることもある。「何よりも密着させることが難しく、最重要事項です」と岡田氏は語る。

「すべてが日本製で安全であること、それが一番です」

受注生産が主な同社にとって自社製品を作る発端となったのは、先代が余った材料で作れ、取引先や近所に配っていた捺印マット。顧客から製品化してほしいと声が上がると、恵美子氏がカラフルな動物型を提案し、「究極の捺印マット」として平成20年にTASKで大賞を受賞。公社のノベルティとしても採用された。また平成24年には、食器の汚れを落とす「海を守る貝」がTASK共同開発部門で入賞。食器を洗う前に使用することで、洗剤や水の使用量を減らすことができる。

自社製品を作る上での一番のこだわりは、すべてが日本製で安全であること。食品衛生基準にも合格しており、子どもが触ったり口に入れたりしても安心だ。どこへ出しても胸を張れる厳選した素材しか仕入れないと断言するお二人からは、製品に対するプライドを感じた。

引き継がれる、思いやりの企業理念

同社は設立当時から、「環境を守る」、「国境を越えた雇用を実践し、社会全体を大切にすること」等、現代でも通じる企業理念を掲げている。外国出身の女性が多く活躍しており、先代に雇われて以来勤続している彼女たちが、ほこりトリの梱包を担っている。ほこりを取る商品だが、販売の際には、やはりほこりのない綺麗な状態で出荷したい。そのために細心の注意を払っている。

また同社は、先代の方針によって、地元の企業と業種を越えた付き合いをしている。例えば進物を選ぶ際も、百貨店で量販されているものではなく、近隣の企業から直接購入するよう心掛けていたとのこと。安さや利益だけを優先するのではなく、日常的な生活に根付いた思いやりの精神は、従業員や地元企業への仲間意識と誇りを感じずにはいられない。自社製品の金型や梱包資材等も、葛飾区内の企業を利用している。

「ものづくりの楽しさを若者に伝え、一緒に盛り上げていきたい」

現在従業員は32名、なかには創業当時から40年近く働く女性の技術者もいる。彼女たちは専用のはさみやカッターを駆使して製品の仕上げ段階の細やかな作業を行う等、同社には欠かせない



工場内で作業中の技術者の方々

存在となっている。今後は従業員の働きやすさと、生産性や効率の向上についても取り組んでいく予定だ。

このように、技術者の手に長年蓄積された技を守りつつ、それを若者や世間に身近に感じてもらう啓発活動に積極的なことも、当社の特徴と言えるだろう。同社は、優れた製品・技術を持つ企業として、葛飾区より

「葛飾ブランド」の認定を受けている。認定を受けた企業は、平成25年までに63社にものぼる。それらの認定企業の代表として、恵美子氏は葛飾区の展示販売イベント「ミライテラス」の立ち上げに深く関わった。日常の業務に加えて毎月の会議に出席し、ミライテラスという愛称やロゴマークは、恵美子氏が提案したものが採用された。「今を生きる我々が輝いて活動し、舵を取って子どもたちの未来を照らす」というコンセプトは、恵美子氏自身のテーマでもあり、「社会全体を大切にすること」を企業理念に掲げた今は亡きお父様からの使命でもある。「だから、この企画には情熱を注ぎました」と恵美子氏は振り返る。ロゴマークには、様々な企業が業種の枠を越えて手を取り合い、協働して盛り上がっていく、という思いを込めた。

ミライテラスに来場する工業高校等の学生の中には、後日同社を訪れる人もいるという。工場を案内したりゴムについて説明をしたりすると目を輝かせて興味を示す若者達

を、日本の未来の担い手として恵美子氏は頼もしく感じている。彼らにものづくりの楽しさに気づいてもらい、自身の視野や可能性を広げてほしいとのこと。

自社の利益や成功はもちろんのこと、近隣他社や環境、ものづくり業界の今後にまで配慮し、精力的に活動する同社。今後も注目の企業だ。

(城東支社 本多由香里)



ミライテラスの
ロゴマーク

(注1) ニューマーケット開拓支援事業…商社やメーカー等で豊富な経験をもつ専門家が、自社製品・技術にアドバイスをを行う等して、具体的な販路開拓・マッチングにつなげる公社の事業。

(注2) テーパ加工…製品の径・幅・厚み等を先細りにする加工。

(注3) シルクスクリーン印刷…インク自体にシリコンを含み、熱で焼き付ける特殊印刷の方法。

(注4) TASKものづくり大賞…台東区(T)、荒川区(A)、足立区(A)、墨田区(S)、葛飾区(K)が共同で行う産業振興プロジェクト。平成18年より毎年、試作開発製品のコンテストを実施している。

(注5) Oリング…円形のゴムで、容器等にはめ込み密封を保つために使われる。

企業名：株式会社おおかわ

代表者：大川淳

資本金：1,000万円 従業員数：32名

本社所在地：東京都葛飾区東水元4-8-2

TEL：03-3609-9123

FAX：03-3609-1007

URL：http://www.ookawa1976.com/